

特定非営利活動法人 子どもアミーゴ西東京

2023 年度 年次報告書

2023 年度事業報告

[期間 2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日]

2024 年度事業計画

[期間 2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日]

2023 年度決算・2024 年度予算

代表理事・理事・評議員・監事の選任



**Children's Amigo
Nishitokyo**
子どもアミーゴ西東京

■日時： 2024 年 6 月 9 日（日） 10:00 ～ 11:45

2024 年度定期総会

■場所： 西東京市コール田無 イベントルーム A・B

■議事次第

第 1 号議案 2023 年度事業報告（案）

第 2 号議案 2024 年度事業計画（案）

第 3 号議案 2023 年度決算・2024 年度予算（案）

（第 4 号議案）監査報告（報告のみ議決なし）

第 5 号議案 代表理事・理事・監事の選任（案）

第 6 号議案 その他

■第1号議案 2023年度 事業報告

新型コロナウィルスの第5類変更に伴い様々な制限が緩和され、放課後子ども支援の活動もコロナ禍前に実施していたことを概ね再開できるようになりました。しかし、3年余りに及ぶ活動のブランクは、子どもにも大人にも小さなものではないことを感じます。様々な制約の中での生活を強いられ体力面にも精神面にも影響が残っていることが、多くのメディアでも報じられました。また、以前の行事の経験、蓄積が自粛期間の人の入れ替わりと共にリセットされ、以前の活動を一から始めていく大変さが多くの子どもに関する職場で見られることが、受託事業の評価会議の場でも地域の方より伝えられました。団体における今年度の事業活動にもまさに同様の傾向が見られたことは否めませんが、活動自粛期間中にも行われた各委員会の基盤継承の取り組みにより比較的速やかな再開に結び付きました。これまで団体が積み上げ成果につながったものを更に安定して継続するよう留意して、各事業に取り組みました。

◇子どもを中心とした支え合いの地域づくり、まちづくり事業

□アミーゴ自然塾

開催日：2023年8月11日 於：埼玉県横瀬町あしがくぼキャンプ場

内 容：卒所生を対象としたキャンプ事業で、2泊3日の予定でしたが、台風の影響により急きょデイキャンプに変更となりました。参加した子ども達はコロナ禍により4年生合宿を体験できなかった年代なので、日帰り実施となった中でも学童の仲間達と一緒に川遊びやドラム缶風呂、野外調理などを満喫していました。小中学校生12名、高校生スタッフ2名で14名参加がありました。

□あそぼう！自然塾～あつまれ、学童なかまたち！～

開催日：2024年1月14日 於：小金井公園

内 容：近隣で学童卒所生が集まるための場づくりイベント。

20名の学童クラブ出身者が集まり、野外で学童クラブ時代の遊びや焚火調理を楽しみました。

□だがしや楽校

開催日：2023年9月10日 於：向台公園

内 容：各学童クラブの地域の子ども達や保護者、児童センターを利用する高校生たちが、職員と協力して出店するブースや団体が出店する飲食販売のブースに加え、紙芝居劇団による紙芝居とワークショップ、様々な地域イベントで活躍する南京玉すだれのユニット、市内の店舗を拠点に積極的に街の活性化に取り組んでいるキッチンカーの出店など、広く地域連携の場になりました。およそ800人の来場がありました

□地域ネットワーク継続の取り組み

①学童指導員研修、研究集会の周知、参加

三多摩学童保育連絡協議会、全国学童保育連絡協議会が主催する研修や研究集会の情報提供を行い、職員による参画がありました。

②こそだてフェスタ

開催日：2023年10月9日 於：ひばりが丘児童センター

内 容：地域で子育てをしている保護者達が立ち上げ、行政を始め様々な地域の機関、子育て支援に関わる団体が協力して開催を続けている子育て応援イベント。事務局から実行委員会に参加し、会場となった児童センターが運営協力を行いました。

③ひばりんピック

開催日：2023年11月25日 於：ひばりが丘たんぽぽ広場

内 容：ひばりが丘地区の若い世代の住民が中心となって主催している親子運動会イベント。事務局による運営協力を行いました。

④アミーゴトークイベント

開催日：2024年1月28日 於：西東京市フレンドリー

内 容：アミーゴビジョンのアクションプランにおける地域連携の活性化を図る取り組みとして、地域で精力的に活動されているゲストとの対話の中から、今後の地域連携のヒントを探りました。NPO法人猫の足あとの岸田久恵氏、ヤギサワベースの中村晋也氏をゲストに迎え、一般参加者も交えて活発に意見が交わされました。

⑤NPO市民フェスティバル

開催日：2024年2月3日～9日（展示） 於：フレスポひばりが丘

2024年2月10日（イベント） 於：MUFGパーク

内 容：西東京市市民協働推進センター「ゆめこらぼ」が事務局となり、市民による実行委員会が主催する市民活動団体のイベント。事務局より実行委員会に参加すると共に財源委員会を中心に、職員による屋内のワークショップや屋外のベーゴマ、遊びブースの出店を行いました。当日は天候にも恵まれ、2000人超の来場者がありました。

⑥だがしの日『子ども縁日』

開催日：2024年3月10日 於：田無神社・総持寺

内 容：だがしやヤギサワベースを中心とした実行委員会が主催し、市内近郊の様々な団体、（株）エフエム西東京や（株）ASTA 西東京などの企業の協賛、協力のもと開催されました。子ども達を対象として駄菓子や遊びを中心とした催しに3000人を超える来場者が集まりました。当団体からは財源委員会が中心となり、ベーゴマなどの昔遊び、ベーゴマ販売のブースを出店しました。親子で缶ゴマやベーゴマを楽しむ姿が、一日を通して見られました。

◇学童クラブ運営事業

2023年度の活動計画として、①学童クラブにおける保育の質の担保、②地域とのつながりの強化の2点を示しました。西東京市においては、学童クラブの定員超過が課題として市議会でも取り上げられ、行政による対策が待たれるところです。アミーゴビジョンの実現を目指すアクションプラン 1 年目を踏まえた取り組みを記載します。

□アクションプラン 1.

これまでの事業の価値を整理、再確認し、可視化を図る 〈運営の指針作り〉

◆2023 年度の目標

指導員会において、アミーゴビジョンを基に団体の学童保育の特色について理解を深め、策定から10 年余りとなる保育指針の改訂に向けた素地を作る。また学童事業の特色が理解できる取り組みや成果（おたより、実践記録、年間保育計画、保育指針等）を整理する。

◆2023 度の取り組み

保育の質の向上の取り組みとして、研修委員会を中心として、外部講師を迎えて子どもへの視点の置き方を学ぶ研修や、子ども達が幼年期を過ごした保育園の先生方を迎えて、学童と一緒に過ごす場づくりを行い、地域における保育の連続性を育む試みや、保育の視点を外部から学ぶ機会を作りました。そういう機会を活かし、「子どもへのまなざし」をキーワードとして、児童記録の活用、実践記録検討会などを実施しました。外部からの知見を学ぶと共に、子どもの記録に関する研修では、団体内の指導員が講師として研修を行いました。それらにより、保育の成果や課題を言語化し、発信、共有ができる力をつけるよう取り組みました。指導員全体による「指導員会」においては、団体の保育の基盤となっているアミーゴ保育指針の理解を深める取り組みを行いました。ただ、保育指針の改訂に向けて指導員が等しく指針に記載されている内容を理解し、次に向けた議論の素地ができるまでには、理解を深める取り組みの継続が必要と感じられました。

□アクションプラン 4.

地域にある課題と向き合う機会づくり 〈課題別の情報交換の場づくり〉

◆2023 年度の目標

地域にある課題と向き合う機会作りとして、学童クラブでは保護者会や茶話会等を通して、対話の場づくりを行う。

◆2023 度の取り組み

保護者会や共催行事、個人面談等を通して、積極的に保護者の方と関わり、対話する場を設けました。各施設ともに、父母会の協力のもと、年度中盤の共催行事、年度終盤の進級・卒所式が無事に開催されました。大規模化が進む中、それぞれの共催行事への参加者数も増大し、150 名以上の参加者数となる施設も珍しくなりました。それに伴い、学童施設での開催が難しくなり、休日に児童館や学校施設などを利用せざるを得ない施設も増えたことが運営上の課題となりました。

□アクションプラン 7.

受託事業の拡大（既存事業の安定化、プレゼンのコンテンツの整理）

◆2023年度の目標

受託事業拡大を視野に、既存事業の安定化を図るため、委託仕様書、水準書の確実な履行を確認する。

◆2023年度の取り組み

既存事業の安定化に向けて、事故防止委員会を中心に、学童クラブにおける各種の事故防止、安全管理についてソフト面、ハード面から検討を行い、必要なマニュアル整備の一元化、事故発生時の対応の統一などを行いました。また、登下所手順の管理、間食提供などの業務手順など、安全管理のための各種フォーマットの統一、手順の統一化に取り組みました。

既存の受託事業の遂行評価として目標とした、受託水準書、仕様書の履行確認については、新たな取り組みを行うことはできませんでした。

◇児童センター運営事業

2023年度児童センター運営事業は、①地域団体・人材との関係強化、②地域の中で切れ目ない居場所作り、③全ての年代の利用者への周知と過ごしやすい環境の整備、④業務の標準化・平準化の4つの取り組みをおこない、主な事業として「地域子育て支援拠点事業（子育て広場事業）」「小学生を対象とした事業」「中学・高校生年代を対象とした事業」を実施しました。

□4つの取り組み

（1）子育てネットワークの拡大を目指し、地域の団体や人材との関係を強化する

子ども家庭支援センターのどかや中原小学校・ひばりが丘中学校など、これまで連携を取り合ってきた各機関との連携は継続しておこない、福祉的支援が必要なケースに直面した場合には細かな連携をして対応をしました。中原小学校運営連絡協議会・避難所運営協議会、ひばりが丘中学校コミュニティスクール・虐待防止外部委員会、不登校情報ネットワークハートラインにしどきょうなど、子どもや地域の情報を共有できる関係を引き続き築いてきました。

地域の行事としては、ひばりが丘団地自治会を中心とした地域のおまつり、桜まつり・秋まつりに実行委員として参加をしました。これらのおまつりは例年実行委員として声がかかっており、児童センターが近隣地域の一員として定着してきている事がうかがえます。

また、これまで中原小学校と谷戸小学校の各育成会との共催で別々に実施されていた児童センターでのおまつりを、両育成会と共に「ひばりまつり」として実施しました。ひばりまつり実行委員会は児童センター、中原小学校育成会ひばり・学校施設開放運営協議会、谷戸小学校青少年育成会メタセコイア・学校施設開放運営協議会、中原小学校父親の会、中原小学校PTA、ひばりが丘中学校PTA、ひばりが丘第一・第二学童クラブ、など、多くの地域の方々で構成され、これまで以上に多くの

大人や子どもたちが参画する地域全体のおまつりとなりました。

当日は児童センター会場と中原小会場で、子ども実行委員や中高生によるゲームのお店屋、大人実行委員によるたべもののお店、ひばり中吹奏楽部の演奏、児童健全育成推進財団協力によるJUMP-JAM 運動あそびコーナーなどの内容で、来場者数は 800 名を越えました。今後も開催は継続し、地域のおまつりとして定着していくよう推し進めています。

その他にも、ヒバジバ食堂では 子ども食堂放課後キッチンごろごろとの共催で月に一度、中高生達と食を通じた交流を実施。夏休みには東京都の子どもの遊び推進プロジェクト（NPO 法人ファザーリング・ジャパン主催）の協力団体として参加をするなど、子育てに関わる団体・関係者とのネットワークをより拡大することができました。

アクションプラン 4 との連動において、地域にある課題と向き合う機会つくりのために地域懇談会の創設を目指していますが、それに向けた下地作りが進んだと考えます。

(2) 地域の子育ての輪の中で、切れ目ない居場所となる施設を目指す

乳幼児から高校生年代まで、それぞれの年代のニーズに応えられるよう様々な事業を実施しました。

（※主な実施事業は後述を参照）概ね例年通りの水準で実施をしましたが、「食」や「宿泊」に関わる事業ができるようになった事が昨年・一昨年との大きな違いでした。小学生向けクッキングや中高生向け子ども食堂事業では毎回多くの参加があり、ニーズの高さがうかがえました。乳幼児向け事業は広場・交流を目的とした「よちわくひろば」にコンスタントに多くの参加があり、年齢分けや登録・申し込みの必要のない行事としてのニーズの高さが感じられました。中高生向け事業としては自主企画のカードゲーム大会やバスケイベントを実施し、中高生が自分たちで企画をして運営をする場面も増えました。

日常においてはコロナ禍で閉鎖していたミーティングルームを開放し、乳幼児から高校生年代までだれでも利用ができる空間として運用。ラウンジ・ブックルームとともに幅広い年代の利用者が一緒に過ごすことのできる居場所となっていました。

遊びにおいては、天下やドッジボールなど常に展開されるものは異年齢・異学校の子どもたちが一緒に遊ぶことができたものの、遊びを拡大させるような展開は JUMP-JAM プログラムを使った「みんなであそぼう」からあまり広げることはできませんでした。

注)JUMP-JAM プログラムとは、児童健全育成推進財団とナイキによる、スポーツと自由な遊びを融合させた運動遊びプログラムで、ひばりが丘児童センターも登録児童館です。

(3) 全ての年代の利用者への周知と、過ごしやすい環境を整備する

広報活動においては乳幼児親子・小学生・中高生年代の 3 世代それぞれに向けたおたより発行

は継続しておこないました。ブログを毎週更新し、館内の様子やイベントの報告を発信し、おたよりを掲載した記事はアクセスが増える傾向が見られました。一方ではX（旧Twitter）の仕様変更によりブログとの連携が機能しない期間が長く、SNSを利用した情報の発信は効果的におこなうことができませんでした。

環境整備については、ミーティングルームを開放し誰でも過ごせる部屋として運用（前述）その他、ラウンジに中高生向け掲示板を作りイベント情報や報告を発信するようにしました。また、ラウンジの常設おもちゃと貸出おもちゃ、よちよちルーム・わくわくルームのおもちゃなどを精査し、遊べるもの増やしました。

（4）基本業務の見直しをし、業務の標準化・平準化を行う

アクションプランで目標としている児童館ガイドラインの理解を深め、運営指針作りの素地を作るということについては、ガイドラインに明示されている基本的な業務内容を理解し、実務の平準化を進める取り組みを行いました。

勤務形態・勤務時間が異なる職場であっても職員間でしっかりと共有・引継ぎができるよう、スタッフルームの共有ボードの活用、昼ミーティングの流れを改善・夜ミーティングの実施、ケガ記録シートの改訂など、職場内でアイデアを出し合い細かくブラッシュアップをして職員間の連携強化を図りました。

業務フローの運用を開始し、業務の標準化に取り組みました。しかし現状に合わせた業務マニュアルの更新までは着手できませんでした。

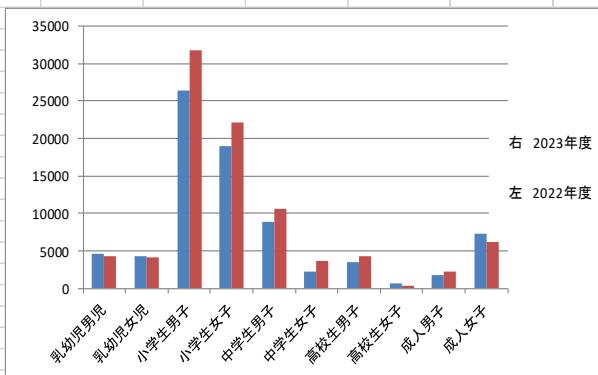
●利用状況

次頁に2023年度の年間利用状況を示します。

ひばりが丘児童センター一年間利用者状況

2023年度

	乳幼児男児	乳幼児女児	小学生男子	小学生女子	中学生男子	中学生女子	高校生男子	高校生女子	成人男性	成人女子	合計人数
合計人数	4294	4108	31745	22177	10696	3761	4308	448	2339	6164	90040
構成比	4.8%	4.6%	35.3%	24.6%	11.9%	4.2%	4.8%	0.5%	2.6%	6.8%	



2022年度

	乳幼児男児	乳幼児女児	小学生男子	小学生女子	中学生男子	中学生女子	高校生男子	高校生女子	成人男性	成人女子	合計人数
合計人数	4666	4338	26421	18991	8948	2240	3482	760	1751	7251	78848
構成比	5.9%	5.5%	33.5%	24.1%	11.3%	2.8%	4.4%	1.0%	2.2%	9.2%	

登録者数

	2022年度	2023年度	増減
乳幼児男児	601	567	94.34%
乳幼児女児	590	566	95.93%
小学生男子	572	692	120.98%
小学生女子	552	570	103.26%
中学生男子	387	459	118.60%
中学生女子	211	286	135.55%
高校生男子	323	296	91.64%
高校生女子	132	84	63.64%
合計	3368	3520	104.51%

◇組織運営

1. 人材育成

- 研修体系の整備に向けて研修委員会を創設し、上半期は主に学童事業部の研修企画に取り組みました。
- 目標共有シートの活用については、シートを用いて各施設の職長と職員に面談を実施し、自己評価と他己評価をすり合わせ、施設と事務局の目標共有を行う試みを開始しました。

2. 運営体制

□次世代リーダーの育成を図り、各事業部の自律的な運営に取り組める組織作りを目指し、事業部会議に業務サポートを担う職員が参加し、運営支援にあたりました。施設運営における課題解決に一定の成果が見られ、職員アンケートによる改善点を基に、今後の制度運用について改めて議論を進めていくこととなりました。

3. 組織基盤強化

□2022年6月に発表したアミーゴビジョンにおいて、3か年のアクションプランを掲げて取り組むこととなりました。7つの項目のうち、5、広報（アウトプット）のコンテンツと発信方法の整理、6、自主財源の拡大の2項目に関しては、広報委員会、財源委員会の活動が大きく連動しております。ビジョンの実現に向けて、各委員会の活動報告を以下に記載します。

◆広報委員会

①Instagram の安定運用

2021年度からスタートしたInstagramですが、2023年度は各施設に素材の提供を依頼し、月2回の更新を継続しました。各施設の様子や、手作りおやつのメニュー、団体のイベント告知など様々なコンテンツを発信しました。

②アミーゴが持っているツールとの相互リンクの設定

団体パンフレットやアミーゴ通信にホームページやInstagramのQRコードを載せて作成しました。

③アミーゴ通信の作成

これまで事務局が作成し、年3回を目途に発行していたアミーゴ通信ですが、広報委員会が作成を担っていくことになりました。2023年度は7月号から始まり、2024年6月までの間に計6号の発行となりました。

④大学、専門学校とのパイプ作り

常勤職員、臨時職員、ボランティア、インターンなど人材確保において大学や専門学校とのつながりは必要不可欠です。まずは児童福祉業界をはじめ、アミーゴを知ってもらうために、学生向けの団体案内資料を作成しました。職員と出身大学との関係もあり、12月5日に東京女子体育大学を訪問、40名近くの学生にプレゼンをし、実際に採用につながりました。

◆財源委員会

①助成金等の情報収集

助成金情報のメールマガジンに登録をして、随時委員に共有を図りました。

2023年度は自然塾事業で浅井スクスク基金より200,000円、だしや楽校事業で真如苑多摩地域市民活動公募助成より160,000円の助成を受けることができました。

また、新年度の助成金申請としてノエビアグリーン助成金を自然塾事業で、真如苑多摩地域市民活動

公募助成金をだがしや楽校事業でおこないました。

②単発事業での財源獲得

だがしや楽校において財源委員会で作成した寄付のお願いに関するチラシ配布や、チーペット販売の案が採用され団体ブースで販売されました。

10月にひばりが丘地域における秋まつりでは、アミーゴブースを出店しベーゴマと工作キットの販売をおこないました。また2月に開催されたNPO市民フェスティバルにおいても団体ブースを出店しました。

オリジナルベーゴマ、手作りおやつとしてラスク、工作キットの販売をおこないました。初めて団体のオリジナルグッズを販売できたことは新たな取り組みとして成果を出すことができました。

③アミーゴに関わる関連団体マップの作成

アミーゴと関わる地域団体や関係者とのつながりはまさに「財産」であると考えます。そのつながりを可視化することで、職員全員がつながりを感じ、必要に応じてそれぞれの事業に絡めていけるようにすることを目的に関連団体マップを作成しました。

■第2号議案 2024年度 事業計画

2022年度に発表したアミーゴビジョンにおいて、当団体は10年後の姿として「放課後の価値が共有されている社会」を目指し、そのためにその価値を理解、体現できる実践者の集団として、その価値を社会に発信し続けること、関わる全ての人が活躍できる場としてあり続ける組織であることを目指すと掲げました。2024年度はアミーゴビジョンに基づくアクションプラン2年目として、初年度の活動の総括と改善に努める取り組みを行ってまいります。

アミーゴビジョン 2022-2031

《目指す社会の姿》

放課後の価値が共有されている社会

《目指す組織の姿》

・放課後の価値を理解し体現できる実践者の集団

・放課後の価値を社会へ発信し続けている集団

・関わる全ての人が活躍できる場

◇子どもを中心とした支え合いの地域づくり、まちづくり事業

□アミーゴ自然塾 / あそぼう！自然塾 ～あつまれ、学童なかまたち！～の実施

自然の中で共に生活することで、子ども達の自立性や協力する力の育成を促すこと、卒所した後も関係性が継続し、学童クラブ運営を通して団体が地域とつながる場を作ることを目的として、卒所生を対象とした夏休み期間中の野外キャンプ事業、他の期間中の近隣公園における場づくり事業を行います。

□だがしや楽校

学童クラブを利用する子ども達とその家庭、児童センターを利用する子ども達、地域で活動する団体や人々が一体となって、「自分を思う存分に見せられる場」を地域に作り、団体と地域とのつながりを作ることを目的として、地域連携イベントを開催します。

□地域ネットワーク継続の取り組み

団体が基盤を置く西東京市における地域コミュニティとの連携を維持継続します。また、学童保育、児童館の各事業においては、中域、広域における連携、情報交換、協力体制の構築を念頭に、積極的に外部機関との関わることができる場づくりを行っていきます。

◇学童クラブ運営事業

2022年度に発表したアミーゴビジョンにおいて、放課後の価値が共有されている社会を目指すために、当団体は放課後の価値を理解し体現できる実践者の集団となることを掲げました。アクションプランの実施2年目にあたる2024年度においては、以下について重点的に取り組んで参ります。

アクションプラン 1.

これまでの事業の価値を整理、再確認し、可視化を図る 〈運営の指針作り〉

◆2024年度の目標

学童事業部で指針改定について検討する。

◆2024年度の取り組み

2023年度において、アミーゴビジョンを基に団体の学童保育の特色について理解を深め、策定から10年余りとなる保育指針の改訂に向けた素地を作ること、また学童事業の特色が理解できる取り組みや成果（おたより、実践記録、年間保育計画、保育指針等）を整理することに取り組みました。

2024年度は更にこの取り組みを進めますが、職員それぞれが既存の保育指針の考え方を理解し、同等の解釈ができたうえで、改訂に向けた議論ができるよう丁寧に進めて参ります。これまでの保育で評価され、成果が出ている保育の姿をより明確に言葉にしながら、その成果に向かう手段の多様性も保障できる体制作りを、業務バランスを鑑み進めて参ります。

アクションプラン 4.

地域にある課題と向き合う機会づくり 〈課題別的情報交換の場づくり〉

◆2024年度の目標

地域団体と協力し合いながら、団体の理解者、協力者の増加につなげる

◆2024度の取り組み

学童クラブにおける最大の地域とつながりは、保護者とのつながりといえます。登下所管理が電子化されることに伴い、伝達の方法にも変化が起こることが予想されます。保護者の方々に学童クラブでの子ども達の生活の様子や施設の考えを伝えるために、保護者会、父母会共催行事など対面での機会と、おたよりや連絡ツールなどの手段を組み合わせて、放課後を過ごす我が子の生活の様子を丁寧

に共有することで、学童クラブと家庭が連携して子どもの育ちを後押しする学童クラブならではの強みを、新しい仕組みの中でも実現できるよう工夫して参ります。その連携強化の中で、団体への理解者を増やすことにつなげて参ります。

アクションプラン 7.

受託事業の拡大 〈既存事業の安定化、プレゼンのコンテンツの整理〉

◆2024 年度の目標

新規受託に向けたプレゼンコンテンツの構築

◆2024 年度の取り組み

西東京市における児童館再編成の議論が継続する中、新規受託に向けて既存事業を安定的に遂行し、その確実な履行を次の受託に向けた成果として発信していくことは必須の取り組みとなります。アクションプラン 1 年目の取り組みとして掲げた、現行の委託契約における仕様書、水準書に記載されている業務履行の確認が、2023 年度においては充分に取り組めなかつたことから、2024 年度において改めて取り組みます。2007 年の受託開始当時、市内における学童保育の水準を牽引できる取り組みを行うことを団体創設の目的の一つにしていた当団体ですが、当時は先進的ともいえた様々な取り組みも、現在は公営施設も含め同等以上のサービス、保育水準のもと運営され、分野によっては当団体が追い付く努力をしなければいけない領域もみられます。公設民営施設の業務として必ず履行しなければいけない水準を再確認したうえで、更に民間運営ならではの利点を活かせるよう、運営の質の向上につなげて参ります。

◇児童センター運営事業

2024 年度は、切れ目ない居場所作り、全ての年代の利用者への周知と過ごしやすい環境整備、地域団体や人材との関係強化、業務の標準化・平準化に取り組んで参ります。

【4 つの取り組み】

(1) 切れ目ない居場所となる施設を目指します。《アクションプラン 1 と連動する取り組み》

- ・0～18 歳までのすべての子どもとその保護者が利用できるよう、児童館ガイドラインに沿った職員の育成をします。そのためにも児童館ガイドラインの理解を深め、自施設の特徴や成果を整理します。
- ・子どもたちのさまざまなニーズに応えられるよう、あそびの充実を図っていきます。また、あそびを拡大させることを意識し、あそびを通して地域の子どもたちが繋がれる施設を目指します。
- ・学童卒所後も継続して利用できる施設として、日常的な学童との連携強化、体制を整えます。

（2）全ての年代の利用者への周知と、過ごしやすい環境を整備します。《〃4と連動する取り組み》

- ・おたよりやSNSなどの広報活動を強化していきます。乳幼児保護者、小学生、中高生など、世代に合わせた媒体選び、更新頻度などの見直しを行ない、必要な情報が効率的に利用者に届けられるシステム作りを行ないます。
- ・施設の案内や、行事予定などを伝える掲示物の内容や掲示の場所、物品の配置の仕方など、施設環境の見直しと整備を行ない、過ごしやすい環境作りをします。

（3）子育てネットワークの拡大を目指し、地域の団体や人材との関係を強化します。

《〃4と連動する取り組み》

- ・地域行事やネットワーク会議などを通して、学校や青少年育成会、児童・民生委員などの各団体との連携を強化し、子どもや地域の情報を共有できる関係性を強めています。
- ・地域の人材を発掘し、さまざまなニーズに応えられるイベントを協働して行なっていきます。

（4）基本業務の見直しをし、業務の標準化・平準化を行ないます。《〃1と連動する取り組み》

- ・児童館の基本的な業務を改めて整理し、現状に合わせて更新を行います。業務マニュアルや業務フローを整備し、業務の標準化を図ります。
- ・業務の平準化を図り、職員の連携強化に取り組みます。

昨年度は新型コロナウィルス感染症の影響が少なかった年であり、児童館らしい豊かな活動が実施できました。

今年度も引き続き児童館ならではの活動を広げていくためにも、児童館ガイドラインに沿った人材育成に力を入れると共に、そのために必要な業務の整理、分担にも力を入れていきます。一人一人の職員が、児童館の役割や価値を深く理解することで、利用者や地域への影響力をもって事業を継続できるよう、取り組んで参ります。

【主な事業の取り組み】

■地域子育て支援拠点事業（子育て広場事業）

親子のつどいの場の提供や、子育て相談事業、子育て啓発事業

■小学生を対象とした事業

居場所の提供や日常の遊び、子どもたちのニーズにあった工作や料理、スポーツ、ゲームなどの行事の実施により、子ども達の育成や自発的な活動の支援、体力の増進を図る

■中学・高校生年代を対象とした事業

居場所の提供や施設のスポーツ設備を活用したイベントの実施、自主的、主体的な活動の立ち上げとその支援、利用者と保護者のための相談事業の実施

以上の内容を、通年で実施して参ります。

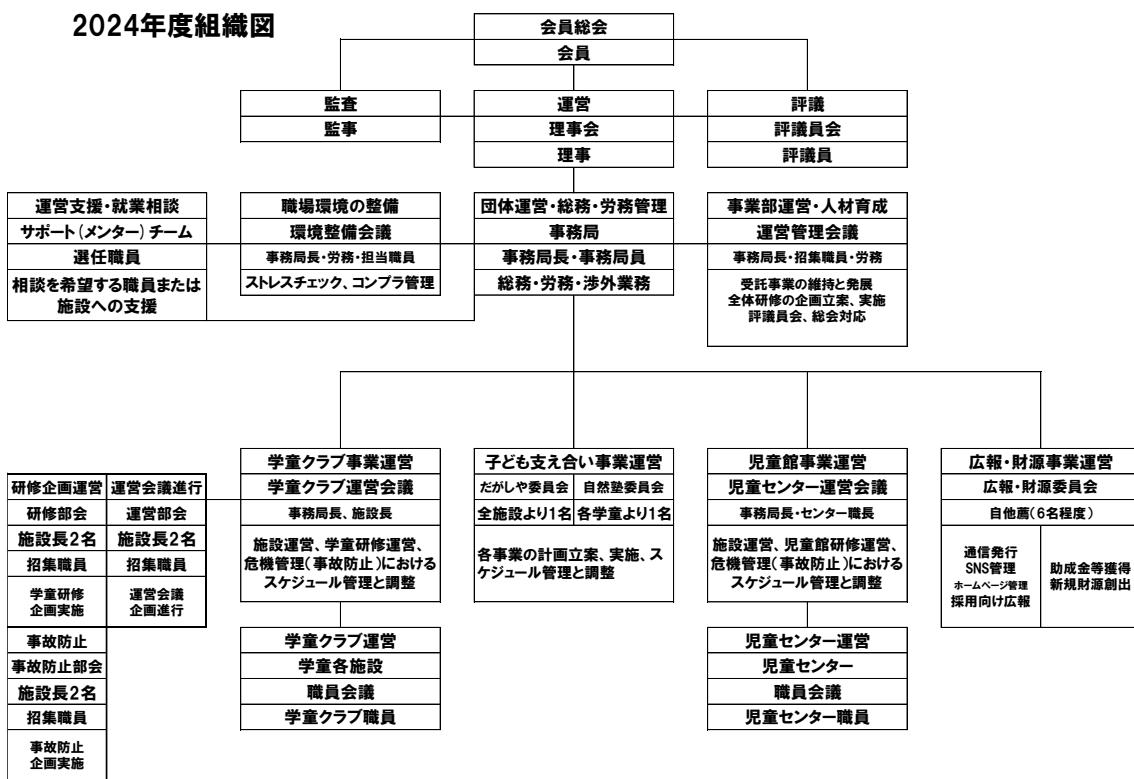
◇組織運営

1. 人材育成

- 研修体系の整備に向けて全職員を対象とする全体研修、学童事業部における研修、児童センター事業部における研修を、事務局、各事業部それぞれの担当会議で企画立案し実施します。
- 職員提案制度の運用方法を理事会において検討し、更に活用を図ります。
- 目標共有シートを改訂し、各職員の目標の明確化を図ります。

2. 運営体制

2024年度の組織運営図を次頁に記載します。



3. 組織基盤強化

2022年6月に発表したアミーゴビジョンにおいて、3か年のアクションプランを掲げて取り組むことなりました。7つの項目のうち、**5、広報（アウトプット）のコンテンツと発信方法の整理** **6、自主財源の拡大**の2項目に関しては、広報委員会、財源委員会において主導して参ります。目指すべきアミーゴビジョンの実現に向けて、3か年計画の2年目にあたる2024年度の計画を以下に掲げます。

◆広報委員会

①企業や他団体へのアプローチ、関係を作る

地域の企業、またはアミーゴの活動に関連するような企業を調査し、CSR活動や協働イベントなどを通じて関係を構築していきます。将来的に自主財源や会員増加につながる下地作りに取り組みます。

②動画ツール、新たなSNSの利用

団体の広報活動として、Instagramの運用が安定してきました。時代のニーズや発信内容の充実を考慮し、動画ツールをはじめ、新たなSNSの導入を検討していくべきと考えます。

③インターン、ボランティア、新規採用のための動き

近隣大学をはじめ、保育、教育系大学を中心に人材確保に向けた働きかけをおこなっていきます。キャリア支援課等に出向き、企業説明会に参加できるようアプローチをかけるなど、方法や手段を検討して参ります。また、学生向け求人サイトの内容の充実を図っていきます。

④アミーゴ通信、Facebookを作成、更新する

2023年度はアミーゴ通信を6回発行しました。2024年度も引き続き、広報委員会で記事を作成し、1年間で6回の発行を目指します。また、団体広報ツールとしてFacebookを事務局が管理、運営をしているので、委員会内で作成、更新をしていきます。

◆財源委員会

①企業や他団体へのアウトリーチ

広報委員会と連携をし、近隣企業や活動に関連のある企業に向けたアウトリーチをし、将来的な自主財源、会員獲得に向けた下地を作っています。

また、昨年度作成した関連団体マップを定期的に見直し、アップデートしていきます。

②単発事業参加の拡大

近隣のイベントを中心に団体として関わっていく機会を増やしていきます。2024年度は活動の枠を広げ、他地域のイベントへの関わりを図ります

③新規事業の展開

2024年度はヒト・モノ・カネといったリソースを考え、実現可能な新規事業を検討していきます。

■ (第4号議案) 監査報告 (報告のみ議決なし)

監査報告書

2024年 5月 15日

特定非営利活動法人 子どもアミーゴ西東京
代表理事 松本 翔 殿

特定非営利活動法人 子どもアミーゴ西東京

監事 永井 昌史 

監事 田中 誠 

特定非営利活動法人 子どもアミーゴ西東京 定款第14条4項に基づき、2023年度の各理事の業務執行の状況及び、法人の財産の状況の監査を行った結果、適切であることを報告する。

■第5号議案 代表理事、理事、監事、評議員の選任

2024年度の代表理事、理事、監事及び評議員を以下の通り提案します。（50音順・敬称略）

□代表理事

(再任)

松本 毅（代表理事 第4期 元西東京市学童クラブ連絡協議会会長）

□理事

(再任)

伊藤由加里（3期目 元西東京市学童クラブ連絡協議会事務局長）

加々見辰也（3期目 元西東京市学童クラブ連絡協議会副会長）

川杉祐太（3期目 特定非営利活動法人子どもアミーゴ西東京職員）

林 秀和（3期目 特定非営利活動法人子どもアミーゴ西東京職員）

村中生恵（3期目 特定非営利活動法人子どもアミーゴ西東京職員）

大和美恵子（2期目 特定非営利活動法人子どもアミーゴ西東京職員）

(退任)

安藤耕司（遊び創造集団たのしーのひ代表）

古谷健太（元特定非営利活動法人子どもアミーゴ西東京副代表理事）

佐藤文俊（特定非営利活動法人子どもアミーゴ西東京事務局長）

□評議員

(新任)

安藤耕司（遊び創造集団たのしーのひ代表）

(再任)

加藤 泰（3期目 元西東京市学童クラブ連絡協議会会長）

佐藤鹿子（3期目 元西東京市学童クラブ連絡協議会事務局員、保育士）

照沼育美（3期目 元西東京市学童クラブ連絡協議会会長）

古谷高子（3期目 元児童相談所職員）

星 ゆかり（3期目 元西東京市学童クラブ連絡協議会副会長、保育士）

大山忠行（2期目 特定非営利活動法人おたすけ隊副理事長）

菊池ゆかり（2期目 SHARE WELL Hironta 代表）

(非改選)

大友禾弘子（栄小学校施設開放運営協議会役員）
小松真弓（地域をつなぐオフィス CEO コミュニティオーガナイザー）
鈴木豊子（特定非営利活動法人子どもアミーゴ西東京職員）
中曾根聰（元西東京市学童クラブ連絡協議会会長）
石井智恵子（保護者 OB）
中村晋也（駄菓子屋ヤギサワベース代表）

(退任)

田崎吉則（西東京市パパクラブ代表）
湊谷智孝（元西東京市学童クラブ連絡協議会副会長）

□監事

(再任)

永井昌史（4期目 元特定非営利活動法人子どもアミーゴ西東京代表理事）
田中 誠（3期目 元西東京市学童クラブ連絡協議会会長）

第6号議案 その他（当日発議）

特定非営利活動法人子どもアミーゴ西東京 概要（2024年4月現在）				
会員数	94			
理事	10			
監事	2			
評議員	14			
職員（常勤）	37			
職員（臨時）	44			
運営施設名		登録児童数	定員	常勤職員数
北原学童クラブ	西東京市北原町1-16-2	72	50	4
向台学童クラブ	西東京市向台町1-22-10	91	50	5
向台第二学童クラブ	西東京市向台町1-22-10	89	50	5
谷戸学童クラブ	西東京市谷戸町1-22-10	99	50	6
ひばりが丘第一学童クラブ	西東京市ひばりが丘3-1-25	106	70	6
ひばりが丘第二学童クラブ	西東京市ひばりが丘3-1-25	106	70	6
ひばりが丘児童センター	西東京市ひばりが丘3-1-25	-	-	7
事務局	西東京市西原町1-5-13-101			2

